



地球温暖化防止は待ったなし！ カギを握るのはあなたです

地球規模で影響を与える 地球温暖化

大気中には、二酸化炭素やメタンなどの温室効果ガスと呼ばれる気体があります。太陽からの日射は、地表で吸収されます。日射により加熱された地表からは赤外線が熱放射され、その一部が温室効果ガスにバランスよく吸収されて、地球は適度な温度を保っているのです。しかし、二十世紀に入り、産業活動が盛んになるにつれて温室効果ガスの濃度が増し、これまで以上に熱を吸収するようになりました。こうして蓄えられた熱によって、気温が上昇し「地球温暖化」が起こっています。

地球温暖化は、地球規模での気候変動を引き起こし、環境に大きな影響を与えます（左記「地球温暖化の影響」参照）。これらの影響は、もうすでに現れ始めており、今後、ますます頻度や程度が増すのではないかと心配されています。影響は、何百年にもわたって徐々に出るため、気付いた時には手遅れに。一度起きた変動は、元には戻りません。

一九九五年以降、温暖化傾向が顕著となり、このまま進むと二一〇〇年には平均気温が一・四〜五・八度上昇すると予測されています。かつてない猛暑と言われる年でさ

札幌市でも積極的に 環境保全対策を推進

市では、平成十年七月に、「札幌市環境基本計画」を策定。この中で、地球温暖化防止を最重要課題の一つと位置付けています。二酸化炭素排出量の削減目標を、平成二十九年には平成二年の水準よりも、市民一人当たり一〇%減と設定。その実現のため、省エネルギーの推進をはじめ、廃棄物の減量と再資源化や、自動車交通対策など、総合的な施策の推進が盛り込まれています。

さらに、環境基本計画の実行計画として、昨年五月にまとめたのが「札幌市温暖化対策推進計画」です。この中には、エネルギーの有効利用や廃棄物の少ない都市の実現などのため、積極的に事業を展開するという市の役割を明記。

また、事業所に関して製造業など業種別の取り組みも挙げて、事業活動を行う上で配慮すべき内容をまとめて



2002年 京都議定書発効に向けて

1997年に京都で開かれた国際会議では、161カ国から政府、NGO（非政府組織）などが参加し、地球温暖化防止策について話し合いました。二酸化炭素削減について、各国の利害が対立する中、数々の交渉を重ねた結果採択されたのが「京都議定書」です。京都議定書には、2000年以降の先進国の地球温暖化対策として、具体的な削減対象ガス（二酸化炭素やメタンなど）とその削減目標（日本は1990年水準から6%削減など）、達成期間（2008年から2012年の間）が定められており、今年中に発効できるよう各国が努力しています。国は今後、目標達成に向け、具体的な施策や仕組みを定め、本格的に対策を実行していくこととなります。

地球温暖化の影響

■異常気象・自然災害の発生

従来の降水パターンバランスが崩れ、極端な洪水や干ばつが増加すると考えられています。

■生態系や農作物に影響

今までの場所に生息できなくなったり、逆に生息範囲が広がったりするなど、動植物の生態系に大きな影響を及ぼします。農作物の収穫量も変化し、凶作や飢饉の発生が懸念されます。

■海面が上昇

氷河の融解や海水の膨張により海面が上昇し、低地が水没すると予測されます。